

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人兵庫県芸術文化協会
施 設 名	兵庫県立尼崎青少年創造劇場
助 成 対 象 活 動 名	“「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ” 行動計画
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	53,401 (千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名）「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ”行動計画

創造発信

ミッション
1

意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞機会の提供

- ・ピッコロ劇団公演／ピッコロシアタープロデュース作品の創造と発信（新作企画、優れた作品の発掘と新演出、関西演劇人の力を結集）
- ・鑑賞劇場の継承、新企画への挑戦
（いいむろなおきマイム＝アクセシビリティ公演）
- ・東北演劇人などとの交流
- ・室内楽サロン（共催事業）＝若手プロ演奏家と協働

アウトカム

- 地域において質の高い創造の場を確保・持続し、わが国の舞台芸術の水準向上に資する。【観点①④】
- 住民の鑑賞活動の拡大に資する。【観点③】
- 東京一極集中の中、地域におけるアーティスト活動の場を継続・提供し、人材流失防止と地域舞台芸術の活性化に資する。【観点②④】

交流連携

ミッション
2

青少年・子どもを育み、地域が息づくひろばとしての機能の発揮

- ・ピッコロ劇団ファミリー劇場／わくわくステージ（中学生向け）
- ・ピッコロ劇団おでかけステージ（小学生向け）
- ・シアタースタート（乳幼児向け）
- ・子どもと楽しむ落語会（ファミリー向け）
- ・子育て団体と連携したお話し会（幼児向け）

アウトカム

→地域において質の高い創造の場を確保・持続し、わが国の舞台芸術の水準向上に資する。

【観点①④】

→住民の鑑賞活動の拡大に資する。【観点③】

→経済的な支援が必要な子ども達に鑑賞機会を提供し、社会と子どもをつないでいく。鑑賞活動の拡大にも資する。【観点②③】

地域創生

ミッション
4

誰もがアクセスできる社会の実現に向けたコミュニティの創生

- ・障害をもつ人へアクセシビリティを向上
（ピッコロ劇団公演での音声ガイド、字幕。文化セミナーでの字幕。マイム公演。他の文化施設との連絡会議など）
- ・乳幼児とその保護者を対象としたシアタースタート
- ・演劇鑑賞機会の少ない地域へのアウトリーチ公演
（・ピッコロ劇団おでかけステージ、ピッコロ劇団わくわくステージ、ピッコロ劇団県内市町ホール公演）
- ・地域でのワークショップ（あつまれ！ピッコロひろば等）

アウトカム

- 障害の有無や年齢、居住地域に関わらず、芸術体験・鑑賞ができる。【観点②③】
- 各地域や団体と連携し、地域のコミュニティづくりに取り組み、創造活動が持続する体制づくりに資する。【観点③④】
- 専門家などと連携し、地域が抱える社会的課題に取り組み、その効果を検証し、発展させる。【観点②④】
- 事業内容や検証内容を広く他館とも共有し、事業効果の波及に資する。【観点②④】

人材育成

ミッション
3

人材育成や芸術活動の裾野を広げていく拠点としての役割

- ・ピッコロ演劇学校/舞台技術学校
（H30：開館40周年記念祭も開催）
- ・ピッコロ劇団員によるアウトリーチ指導
（ワークショップなど）
- ・ピッコロフェスティバル
- ・ピッコロ実技教室（ちゃっと！狂言等）
- ・ピッコロシアター文化セミナー

アウトカム

→地域において学び体験する場を確保・持続し、将来の演劇創造および地域コミュニティづくりに貢献する人材の育成に資する。

【観点①②④】

→市民の文化活動を支援することで文化の裾野を広げ、鑑賞者・活動者の拡大に資する。

【観点③】

→気軽に無料で一流アーティストの世界に触れることで、舞台芸術への関心が高まり、興味を拓き、鑑賞者の拡大に資する。【観点③】

（注）劇場・音楽堂等機能強化推進事業において求められる観点

【観点①】文化芸術領域における国際プレゼンスの向上

【観点②】地域における社会的課題解決に対する寄与

【観点③】鑑賞及び文化芸術活動を行う国民の拡大

【観点④】持続可能な創造活動の体制確保

(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	兵庫県立ピッコロ劇団 第64回公演 「銭げば！」	5.24(金)～6.2(日)	演目＝「銭げば！」／原作＝モリエール「守銭奴」／台本・演出＝岡部尚子(空晴)／出演＝ピッコロ劇団員	目標値	1,728
		ピッコロシアター 大ホール		実績値	1,205
2	兵庫県立ピッコロ劇団 第65回公演 「ブルーストッキングの 女たち」	10.4(金)～9(水)	演目＝「ブルーストッキングの 女たち」／作＝宮本研／演出＝ 稲葉賀恵(文学座)／出演＝ピッ コロ劇団員	目標値	1,728
		ピッコロシアター 大ホール		実績値	1,354
3	兵庫県立ピッコロ劇団 第66回公演 ピッコロシアタープロデュース 「夢をみせてよ」	2.28(金)～3.1(日)	演目＝「夢をみせてよ」／作＝ 岡部尚子(空晴)／演出＝内藤 裕敬(南河内万歳一座)／出演 ＝ピッコロ劇団員ほか	目標値	2,400
		兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール		実績値	1,406
4	ピッコロ劇団ファミリー劇場 「歌うシンデレラ」	①8.3(土)～4(日) ②12.21(土)～22(日)	演目＝「歌うシンデレラ」／作＝ 別役 実／演出＝吉村祐樹(ピッ コロ劇団員)／出演＝ピッコロ 劇団員 ②はオーディションによる子ども 達が参加	目標値	2,832
		①ピッコロシアター 大ホール ②兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール		実績値	2,512
5	兵庫県立ピッコロ劇団 オフシアターVol.35 「炎の人-ゴッホ小伝-」	4.12(金)～14(日)	演目＝「炎の人-ゴッホ小伝-」／ 作＝三好十郎／演出＝眞山直則 (ピッコロ劇団員)／出演＝ピッ コロ劇団員	目標値	340
		ピッコロシアター 中ホール		実績値	432
6	SENDAI 座☆プロジェクト2019 「十二人の怒れる男」	12.6(金)～7(土)	演目＝「十二人の怒れる男」／作 ＝レジナルド・ローズ／翻訳・ 演出＝宮島春彦／出演＝樋渡宏 嗣ほか	目標値	240
		ピッコロシアター 中ホール		実績値	197
7	ピッコロシアター鑑賞劇場 シアタースタート てんたん人形劇場 「たったか たったか たったかた」	5.24(金)	演目＝「たったか たったか たったかた」／出演＝てんたん 人形劇場	目標値	200
		ピッコロシアター 中ホール		実績値	181
8	ピッコロ演劇学校	4.24(水)～3.8(日)	本科(96講義)・研究科(93講義) 中間発表会 10.26(土)27(日)、 11.2(土)3(日) 合同卒業公演 3.7(土)8(日)	目標値	60
		ピッコロシアター		実績値	68
9	ピッコロ舞台技術学校	4.24(水)～3.8(日)	延べ107講義 中間発表会 10.26(土)27(日)、 11.2(土)3(日) 合同卒業公演 3.7(土)8(日)	目標値	30
		ピッコロシアター		実績値	24
10	2019 ピッコロフェスティバル	7.25(金)～8.25(日)	県民参加企画(演劇(小・中・高、 大学・一般)、バレエ・ダンスほ か)／地域団体連携企画(人形 劇フェスタ、パリアリーコンサート ほか)など	目標値	7,000
		ピッコロシアター		実績値	5,252
11	あつまれ！ピッコロひろば	5.7(火)～3.22(日)	ピッコロ劇団員2～5名が県内 各地(主に小学校)に出向き行 う演劇表現ワークショップ	目標値	900
		小学校、NPO法人等		実績値	460

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
12	おでかけステージ 「星のキャンタータ」	10.17(木)、11.8(金)、 11.12(火)	小学生を対象にした演劇舞台普及事業、小学校の体育館で開催 演目＝「星のキャンタータ」／原作＝三木卓／台本・演出＝原竹志(ピッコロ劇団員)／出演＝ピッコロ劇団員	目標値	6 小学校
		小学校体育館		実績値	4 小学校 1,775
13	中学生のための演劇鑑賞体験(ピッコロ劇団公演)事業 ピッコロわくわくステージ ①「銭げば!」 ②「歌うシンデレラ」	①5.25～6.14 ②11.26～12.3	中学生を対象とした演劇舞台普及事業。5～6月にピッコロシアター及び県内の北播磨/西播磨地域で、11～12月にピッコロシアターで開催 演目＝①「銭げば!」 ②「歌うシンデレラ」 ①ピッコロ劇団第64回公演演目 ②同ファミリー劇場公演演目	目標値	—
		・ピッコロシアター大ホール(①②) ・小野市うるおい交流館エクラホール(①) ・太子町立文化会館あすかホール(①)		実績値	5,728
14	ピッコロシアター文化セミナー<95><96>	<95>8.10(土) <96>9.7(土)	<95>平野亮一さんに聞く(バレエダンサー・英国ロイヤルバレエ団プリンシパル) <96>笑福亭仁智さんに聞く(落語家・上方落語協会会長)	目標値	632
		ピッコロシアター大ホール		実績値	749
15	ピッコロシアター鑑賞劇場 ピッコロ寄席へ行こう! 「子どもと楽しむ落語会」	3.15(日)→中止	(当初の出演予定:桂吉弥ほか) ※中止はウイルス禍の影響	目標値	370
		—		実績値	—
16	ピッコロシアター実技教室 「ちゃっと!狂言」	7.25(木)～28(日)	講師＝大蔵流狂言方 善竹隆司ほか／主な内容＝狂言の解説、台本読み・所作の稽古、成果発表会(演目＝「以呂波」「柿山伏」)	目標値	35
		ピッコロシアター中ホール		実績値	22
17	バリアフリー対応	①8.3(土)ファミリー劇場 ②11.27(水)、29(金) わくわくステージ ③2.28(金)～3.1(日) 劇団公演「夢をみせてよ」	鑑賞サポートの主な内容 ①字幕付き公演、手話・筆談対応 ②字幕付き公演、音声CD貸出、点字パンフ作成 ③音声ガイドサービス、点字パンフ作成、補助犬ユーザーの鑑賞、手話・筆談対応	目標値	—
		①②ピッコロシアター大ホール ③兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール		実績値	—

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価	
事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。	
当劇場では、4つのミッションに基づき計画どおり事業を推進している。	
1 意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞機会の提供【創造発信】	
兵庫県立ピッコロ劇団は7事業を実施（本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1、おでかけステージ4小学校、わくわくステージ48中学校）。上質な作品の上演を通じて地域における演劇鑑賞機会を提供、演劇鑑賞人口の拡大に努めた。また、ピッコロシアター鑑賞劇場として、演劇・落語・音楽などの舞台芸術鑑賞機会の提供のほか、東日本大震災を機に始まった東北演劇人との交流による上演機会を継続する、特徴的な取組を行った。	
2 青少年・子どもを育み、地域が息づくひろばとしての機能の発揮【交流連携】	
シアタースタート（乳幼児・家族）181人、あつまれ！ピッコロひろば（小学生）460人、おでかけステージ（小学生）1,775人、わくわくステージ（中学生）5,728人など、対象の世代毎に特色ある公演（鑑賞体験）を実施。また、企業や民間NPOと連携し、経済的支援が必要な家庭や子ども食堂を利用する子どもたちをピッコロ劇団ファミリー劇場へ招待するなど、経済環境に関わりなく演劇の楽しさを体験できる機会を提供（大阪ガスグループ企業ボランティア活動175人、地元企業52名など）。	
3 人材育成や芸術活動の裾野を広げていく拠点としての役割【人材育成】	
演劇学校本科（第37期生）35名・研究科（第36期生）26名、舞台技術学校（第28期生）22名が修了、舞台芸術活動を通して将来の演劇創造者や地域に根ざした文化活動のリーダーとして活躍できる人材の育成を推進した。またピッコロ劇団員による高校・大学等での演技や表現力向上の指導、子ども向けワークショップ、体験型実技教室（狂言）など、演劇表現の力を活かした人材育成を行った。	
4 誰もがアクセスできる社会の実現に向けたコミュニティの創生【地域創生】	
ピッコロ劇団ファミリー劇場やピッコロわくわくステージでの聴覚障害者のための字幕付き公演（兵庫県立聴覚特別支援学校生が鑑賞）や、プロデュース公演での視覚障害者のための音声ガイド付き上演など、障害者への鑑賞サポートを実施。また、地域社会に馴染みにくい外国人を対象に日本語を使ったコミュニケーションワークショップ（日本劇団協議会事業への協力参加）を展開するなど、社会包摂に向けた取組を展開した。	
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。	
1 文化的意義	
①フランス古典喜劇作家モリエールの原作『守銭奴』をベースに、関西で活躍の劇作家・岡部尚子（空晴）作の関西弁での上演『銭げば！』、②宮本研作、文学座の新鋭・稲葉賀恵の演出で上演した『ブルーストッキングの女たち』、③岡部尚子（空晴）作、関西演劇界をけん引する内藤裕敬（南河内万歳一座）演出で、宝塚市でかつて活躍した介助犬シンシアをモチーフに、犬と人間の共生をめぐる物語『夢をみせてよ』の上演など、現代を代表する演劇人による名作の発掘や地域の魅力を再発見する創作舞台の実現に努めた。	
2 社会的意義	
乳幼児・家族（シアタースタート）～幼児・小学生（あつまれ！ピッコロひろば、おでかけステージ）～中学生（ピッコロわくわくステージ）～高校生・大学生・大人（劇団公演、演劇活動への協力等）～子どもたち・ファミリー（ファミリー劇場、実技教室等）と、乳幼児から大人まで幅広い世代に対してバラエティに富んだ事業を提供。加えて、音声ガイドや字幕付き上演等を通じた障害者のアクセシビリティ向上を推進した。	
演劇学校・舞台技術学校は、週2回・夜間開講で、社会人や学生でも無理なく通え、日本を代表する演劇人や舞台技術者による特別講義が受講できるなど、定評がある。令和元年度末までに、約2,700名の卒業生を輩出、地域文化活動のリーダーやプロの技術者として活躍しているOBも多い。	
3 経済的意義	
舞台芸術の創造発信やその鑑賞機会においても首都圏集中が進む中、劇団・学校を附設する劇場が地域（兵庫/尼崎）に存在することで、関西地域のニーズに密着した事業活動・運営を展開してきた。舞台製作に当たり、旅費や滞在費、運搬費など軽減（首都圏への依存を抑制）しつつ、その分、出演料や指導料など地域の作り手に活躍の場を与え育てる効率的な投資を行った。	

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

地域における舞台芸術の拠点施設として、令和元年度で41年目となる歴史のもとに培ってきた劇場・劇団・学校(演劇・舞台技術)の強みを活かしつつ、地域とともに持続的に演劇を中心とする芸術文化の振興を図りながら「地域が芸術でつながり誰もが生きやすい社会をつくる」を目指した事業を推進、現在、目標の達成に向けて劇場・劇団・学校事業は概ね計画に沿って進捗した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響も一部あった。

平成31(令和元)年度の実施状況は下表のとおり。

アウトカム	目標	指標	5年間の目標	H31年度の実施状況
(A) 地域において質の高い創造の場を確保・持続	安定的な劇団公演の継続：本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1～2、おでかけステージ、わくわくステージ	ピッコロ劇団公演事業数の確保と充実	6～7事業/年の事業実施	7事業を実施(本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1、おでかけステージ、わくわくステージ)
(B) 住民の鑑賞活動の拡大			95%以上の高水準の維持	満足度平均93.5%
(C) 地域におけるアーティスト活動の場の提供による人材流失の防止と地域舞台芸術の活性化	演劇公演入場者数の増(劇団公演、鑑賞劇場)	公演事業の入場者数の増	15,000人/年	14,412人 (注)プロデュース公演「夢をみせてよ」では、ウイルス禍の影響により、かなりの来場キャンセル等
(D) 経済的な支援が必要な子ども達に企業助成等により鑑賞機会を提供、社会と子どもをつなぎ、鑑賞活動を拡大	助成企業の拡大	企業助成による鑑賞者数の増	400人/年	232人(大阪ガス175、日興油脂52、子ども若者応援クーポン5)
(E) 将来の演劇創造および地域コミュニティづくりに貢献する人材を育成	演劇学校、舞台技術学校の持続的な事業展開	定員を確保し、人材数を累増	5年間で卒業生計400人	演劇学校：本科35、研究科26、計61 舞台技術学校：22/合計83人
	教育機関と連携：おでかけステージ、わくわくステージ、ピッコロひろば、劇団員アウトリーチ指導、インターンシップ	連携する学校数の増	40校/年との連携	わくわくステージ47校 おでかけステージ4校 インターンシップ6校 トライやるウィーク16校 劇団アウトリーチ26校
(F) 市民の文化活動を支援することで裾野を広げ、鑑賞者・活動者を拡大	ピッコロフェスティバルの継続、室内楽サロン6の継続、実技教室2の継続	施設能力のもと可能な限りピッコロフェスティバル参加団体数を維持	95～100団体/年	ピッコロフェスティバル参加75団体 室内楽サロン5回/実技教室3回 (注)室内楽サロン1回・実技教室1回：ウイルス禍の影響により中止
(G) 気軽に一流アーティストの世界に触れることで、舞台芸術への興味を拓き、鑑賞者を拡大	文化セミナー年2回の継続	文化セミナー開催数、参加者数	2回/年、350人/回	2回、354人・395人
(H) 障害の有無や年齢など、居住地域に関わらない芸術体験・鑑賞機会の提供	アクセシビリティ向上への試行	バリアフリー事業実施数	2事業/年	3事業(公演) (ファミリー劇場及びわくわくステージ：字幕付き公演、本公演：音声ガイド)
(I) 地域におけるコミュニティ再生などの活動に取り組む体制づくりの促進	コミュニティ形成や社会的課題解決のためのワークショップ等を開催	あつまれ！ピッコロひろば(子ども向けワークショップ)等の開催	20～30回/年	あつまれ！ピッコロひろば12回 ピッコロフェスティバル1回 (注)「子どもと楽しむ落語会」：ウイルス禍の影響により中止
(J) 事業内容や検証内容を広く他館とも共有し、事業の効果を波及	先導的事業について他館と内容・検証結果を共有する場の設定	アクセシビリティ向上、連絡会議の開催	H30以降も開催	「夢をみせてよ」公演時に他館関係者への案内など
(K) 専門家などと連携し、地域が抱える社会づくりに取り組み、効果を検証、発展	地域のコミュニティ創生貢献のための検討の場の設定	ワークショップ、情報交換会等の開催数	H30以降も開催	外国人対象のワークショップ(4日間)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
 アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

- ◆ 「(2) 平成 31 年度実施事業一覧」のとおり、ほぼ予定どおり劇場・劇団事業を実施した。なお、「子どもと楽しむ落語会」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため中止した。
 下表のとおり、当館の特性（開館以来 40 年培った地域でのネットワークや人的資源等）を活かして、年間を通して計画的かつ相乗的な効果が見込める事業運営に努めた。
- ◆ わくわくステージでは、第 64 回本公演の『銭げば!』とファミリー劇場の『歌うシンデレラ』を活用することで、製作経費を押さえつつ、関心の広がりや意を用いたロングラン上演を可能にした。
 また、第 66 回本公演の『夢をみせてよ』では、地域の図書館やシンポジウムに出向いて公演のモチーフとなった宝塚市でかつて活躍した介助犬シンシアを巡る紙芝居（劇団員制作）などによる「おはなし会」を開催するなど、公演の事前広報を兼ねて地域住民や子ども達への介助犬の社会的な理解促進にも協力した。
- ◆ また、鑑賞劇場での SENDAI 座☆プロジェクトとの共催事業（東北演劇人との交流、今回が 8 度目のピッコロシアター公演）として「十二人の怒れる男」（第 73 回文化庁芸術祭演劇部門優秀賞受賞作）を昨年度に引続き再演。東北と関西との交流を一層深める契機とした。
- ◆ 一定の成果を得るとともに、計画よりも高い収益率となった劇団公演・事業もある一方、計画どおりの収益率に達しなかった公演等もあることから、今後とも効率的な経費支出とともに、広報の工夫や新たな客層の開拓などにより収入増を図る努力がさらに必要である。

No	事業名	(実施期間)												予算(上段)/決算(下段)			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	収入 A	支出 B	収益率 A/B	
5	兵庫県立ピッコロ劇団オフシアターVol.35 「炎の人-ゴッホ小伝-」														1,249	2,596	48.1
															1,249	2,491	50.1
7	ピッコロシアター鑑賞劇場シアタースタート てんたん人形劇場「たったか たったか たったかた」														99	421	23.5
															88	301	29.2
1	兵庫県立ピッコロ劇団 第64回公演「銭げば!」														4,536	12,500	36.3
															1,893	11,148	17.0
13	中学生のための演劇鑑賞体験事業 ピッコロわくわくステージ「銭げば!」「歌うシンデレラ」														0	17,627	—
															82	12,716	—
4	兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場 「歌うシンデレラ」														4,746	25,013	19.0
															4,372	22,132	19.8
10	2019 ピッコロフェスティバル														10	913	—
															10	845	—
16	ピッコロシアター実技教室「ちゃっと! 狂言」														172	645	26.7
															123	550	22.4
14	ピッコロシアター文化セミナー(95)<96>														0	989	—
															0	837	—
12	おでかけステージ「星のキャンタータ」														1,782	6,272	28.4
															1,788	3,894	45.9
2	兵庫県立ピッコロ劇団 第65回公演 「フルーストッキングの女たち」														4,536	16,153	28.1
															2,348	16,538	14.2
6	SENDAI座☆プロジェクト2019 「十二人の怒れる男」														0	496	—
															0	187	—
3	兵庫県立ピッコロ劇団 第66回公演 ピッコロシアタープロデュース「夢をみせてよ」														7,200	22,328	32.2
															4,026	16,356	24.6
15	ピッコロシアター鑑賞劇場 ピッコロ寄席へ行こう! 「子どもと楽しむ落語会」														506	997	50.8
															0	535	中止
11	あつまれ!ピッコロひろば														490	1,280	38.3
															638	595	107.2
8	ピッコロ演劇学校														7,702	12,853	59.9
															8,186	10,974	74.6
9	ピッコロ舞台技術学校														3,226	9,294	34.7
															2,421	8,972	27.0

注) 1 予算については補助交付申請時の額/決算については実績報告時の額(単位:千円、%)
 2 収益率で「-」になっているものは、無料公演等で収入を見込まない公演・事業

(4) 創造性

自己評価	
事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。	
1 公演での独自の工夫 事業展開にあたっては、次表記載などの独自の工夫を行った。	
演目	独自の工夫
第 66 回公演 「銭げば！」 ※わくわくステージ (5, 6 月期)も同演目	◆上演される機会の少ない古典喜劇作家・モリエール。代表作「守銭奴」を、台詞を関西弁に置き換えて「銭げば！」として上演、気軽に名作に親しむ機会を提供。 ◆創作上の試みとして「一つの役を複数の役者が演じていく・・・登場人物の衣装を舞台上で着替えてリレーする」「演じていない役者が舞台上で進行を見守りながら参加する」など古典作品をピッコロ劇団オリジナルとして創作。
第 67 回公演 「ブルーストッキングの女たち」	◆ピッコロ劇団公演初演出に文学座の新鋭・稲葉賀恵を迎えることで、劇団員も刺激を受けつつ更なるレベルアップを図ることができ、十三夜会 10 月月間賞推賞を受けた。 ◆劇団後援会（ピッコロサポートクラブ）の会員を対象に、稽古見学会を開催（無料）。写真撮影を可とし、SNS 等での拡散に協力してもらうなど広報の充実を図った。
第 68 回公演 ピッコロシアター プロデュース 「夢をみせてよ」	◆2ステージで音声ガイド付き上演を実施、ピッコロ劇団員が舞台の視覚情報を実況した。上演前には触図を使っての来場者への舞台美術の説明、終演後には舞台監督と演出助手による作品の解説を行った。 ◆同作品の理解をより深めることができるよう関連企画を実施。 【企画 1】劇団員が絵と台本を手掛け、介助犬制度を紹介する紙芝居「グッドガール シンシア※」を製作。地域の小学校や図書館での「おはなし会」やシンポジウムで上演、介助犬の認知向上とともに公演を PR。 ※事故で車椅子生活を余儀なくされた兵庫県宝塚市在住者のかつての愛犬で、国内で 3 頭目に認定された介助犬。介助犬のシンボリック的存在として活躍し、2002 年「身体障害者補助犬法」の成立に貢献。 【企画 2】「犬と私の物語」をテーマにエッセイを募集。応募作（12 作品）を公式ブログに掲載、公演会場での掲示など。
オフシアター Vol. 35 「炎の人-ゴッホ小伝-」	◆将来のピッコロ劇団公演活動を形づくるための出会い・実験の場として上演。劇団の若手中心 13 人の俳優陣が 27 人の登場人物を演じ分けた 3 時間 20 分の意欲作。 ◆日本人に馴染みの深いオランダ人画家ゴッホを巡る本作品の上演企画は、劇団 2 年目の若手劇団員が提案、十三夜会 4 月月間推賞を受けた。
ファミリー劇場 「歌うシンデレラ」 ※わくわくステージ (11, 12 月期)も同演目	◆8 月公演では、台詞や音の情報を舞台横の位置に縦表示する字幕付き上演を行った。聴覚障害のある方や聞こえづらい高齢者にも楽しんでいただけた。 ◆12 月公演では、オーディションによる関西在住の子供達 21 名が出演、日頃から歌やダンスを学ぶ子供達に創作舞台の現場体験の場を提供。
2 中学生向けに“わくわくステージ” 兵庫県内の中学生を学校単位で招待し、ピッコロシアター大ホールでの本格的な演劇舞台の鑑賞体験を通して、演劇の面白さを実感してもらうとともに心の豊かさを育んでもらうことを目的とした事業として平成 22 年度にスタート。ピッコロ劇団本公演あるいはファミリー劇場の演目を上演。10 年目を迎え、6 月期・11 月期合わせて 5,000 を超える鑑賞者となっている。近年では広域対応を図ることとして、県内の但馬、西播磨、北播磨、丹波地域の市町ホールでの上演も行った。	
3 東北演劇人との積極的な交流 東日本大震災を契機に、東北から全国発信してきた SENDAI 座☆プロジェクトとの交流を継続しており、ピッコロシアターでの上演は 8 回目。 令和元年度は「十二人の怒れる男」（平成 30 年度ピッコロシアターでの上演により、第 73 回文化庁芸術祭演劇部門優秀賞受賞）を昨年度に引続き再演、関西の演劇ファンにアピール。	
4 全世代に向けた鑑賞劇場・公演のラインナップ構成 シアタースタートやピッコロファミリー劇場、子どもと楽しむ落語会など、早い年齢から劇場に親しんでもらうための企画を継続して展開。平成 25 年から続くシアタースタートは、乳幼児向けの良質な作品を創る実績のある表現者を招へい、子育て世代に子どもと劇場を楽しむ知育おでかけ場所を提供。	
5 演劇・舞台技術の人材育成と教育機関等への協力 昭和 58 年開設の演劇学校・平成 4 年開設の舞台技術学校では、これまでに 2,700 名を超える卒業生を輩出。加えて、ピッコロ劇団員を教育現場などに派遣するアウトリーチ活動（訪問先として社会人・大学生等向け 16 団体、小中高校 25 校等）を通して、地域のコミュニティづくり等に貢献できる人材育成への支援を継続。	
6 アクセシビリティの向上への対応 ・ピッコロ劇団公演での音声ガイド付き上演、字幕付き上演など、障害者も楽しめる公演を提供。 ・企業や NPO などと連携し、経済的支援が必要な子どもたちなどに芸術鑑賞や体験機会を提供。 ・地域社会により馴染めるよう外国人を対象にワークショップ（日本劇団協議会事業への協力参加）を開催。	

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

1 公演・事業の満足度は高く、アンケート結果はいずれも 90%以上。

（参考）満足度アンケートから「大変満足」「満足」の比率

区分	満足度(%)
鑑賞劇場（演劇、音楽、落語）	98.3
文化セミナー	98.5
実技教室（ちゃっと！狂言ほか）	100.0
劇団公演	93.5
貸館利用者	93.2

2 広報媒体による発信として、定期的なプレスリリースに加え、公演形態・稽古スケジュールに応じた記者会見や稽古取材、個別インタビュー、新聞社訪問、劇団員等の在阪メディアへの出演。また地元FM局にピッコロシアター・ピッコロ劇団コーナーを運営している。

（参考）広報媒体による発信状況

区分	内容
ホームページの利用状況	施設概要、利用案内、事業内容、劇団情報など幅広く発信 《アクセス件数》108,015 件
SNSの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・劇団ブログ「今日のピッコロ」 アクセス数 400~500 件/日 ・劇団ブログ「稽古場ダイアリー」 アクセス数 200~300 件/日 ・学校Instagram（フォロワー約 550 人） 閲覧数 200~300 件/日 ・全体フェイスブック（登録者数 700 名） 閲覧数 500~600 件/日 ・ツイッター（フォロワー約 600 人） 閲覧数 1,500~1,600 件/日
定期刊行物の発行・配布	月間催し物案内（毎月）やピッコロ劇団後援会機関紙「into」を発行し（年 4 回、各 4,000 部程度）、来館者、近隣の公共施設や文化施設等に配布。
地元FM局との連携	FM尼崎「ピッコロ通信」毎月第 2・4 土曜放送 FM宝塚「ピッコロ劇団公演情報」毎月第 2 月曜放送

（参考）劇団員インタビュー、ピッコロ劇団に係る論評など

劇団員インタビュー、ピッコロ劇団に係る論評など ※（ ）内：劇団員等関係者	掲載新聞
子ども新聞 週刊まなびー（田淵詩乃）	神戸新聞 9/29
補助犬シンポジウム出演者に聞く（風太郎）	毎日新聞 12/13
インタビュー：避難所で公演 励まされた～震災特集～（平井久美子）	読売新聞 1/6
ピッコロ劇団舞台「夢をみせてよ」開幕 地域・学校とともに四半世紀（内藤裕敬）	朝日新聞 2/20
県立ピッコロ劇団 25 周年 演劇評論家 九鬼葉子さんに聞く	神戸新聞 2/21
別役実さん追悼（岩松了）	読売新聞 3/12
別役実さんが残したもの（平井久美子）	神戸新聞 3/21
非常時こそ見える芸術の魂 震災とコロナ 演劇人は	産経新聞 3/28

3 (1) ユニバーサル社会づくりに向けた実践活動を顕彰する「令和元年度ユニバーサル社会づくり賞」において、ピッコロシアターが音声ガイド付き公演や字幕付き公演など障害者の舞台芸術鑑賞のサポートを推進していることが評価され、「推進会議会長賞」を受賞。

(2) ピッコロ劇団員の森 万紀が「第 22 回関西現代演劇俳優賞」を受賞。ピッコロ劇団第 65 回公演「ブルーストッキングの女たち」の『松井須磨子・ノラ』役での演技が評価された。

(3) 「ブルーストッキングの女たち」及びオフシアターVol. 35「炎の人-ゴッホ小伝-」では、十三夜会※「平成 31 年度年間賞(推奨)」受賞。 ※関西の演劇評論家や研究者が感銘を受けた公演を毎月表彰

4 劇場として 41 年/劇団として 25 年の地域での活動は「開かれた劇場」としての地域からの評価を受け、学校現場等との連携・交流が積極的に図られてきた。毎年、小・中・高校、大学、企業、市町等からの要請を受け多くの劇団員を講師や指導者として派遣。他劇団や地域団体等の依頼を受けての演劇公演、放送等での外部出演も多数。

◆行政機関、学校など主な派遣先

- ・社会人：豊岡市、劇団高円養成塾、県自治研修所（行政特別研修）、県立教育研修所、キング醸造(株)、県立こどもの館
- ・高校・大学等：宝塚北高、伊丹北高、プール学院高、神戸鈴蘭台高、クラーク記念国際高校芦屋キャンパス、甲南女子大、近畿大、神戸松蔭女子学院、県立神出学園、県立山の学校
- ・小・中学等：小部中（神戸）、建屋小（養父）、城西小（赤穂）

◆外部出演（31 件）などの例

兵庫県劇団協議会公演「大正七年の長い夏」、日本製鉄尼崎製造所 100 周年記念式典、清流劇団公演「野がも」、第 21 回身体障害者補助犬シンポジウム、加古川シティオペラ・ジュニア「チェルキオ」

◆トライやるウィーク(中学生の就業体験)の受け入れ(8 校 16 人)

尼崎市：大成中、小園中、園田中、南武庫荘中／宝塚市：南ひばりガ丘中／神戸市：魚崎中、本山中、友が丘中

◆インターンシップの受け入れ(6 校等 13 人)

大学：大阪大、神戸学院大（留学生）、大阪教育大、神戸松蔭女子大、京都女子大、その他（県庁からの受入）

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

- 1 兵庫県からの指定管理を受けて、これまでに蓄積してきた施設の強みや特色を発揮しつつ、県と連携して安定した運営基盤の確保を図り、兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)事業運営方針に基づき、地域特性やニーズへの対応を前進させている。
- 2 劇場運営委員会・ピッコロ劇団企画運営委員会などでの意見や助言をいただきながら、本報告中「1. 事業概要(1)事業計画の概要」に記載したミッションに沿う創作公演・人材育成・普及啓発事業など、兵庫県芸術文化振興ビジョンの実現“芸術文化立県ひょうご”に向けた歩みを継続している。
- 3 組織体制としては、正規職員数を維持するとともに、定年退職者の再雇用や劇場勤務・劇団所属経験のある嘱託員の任用を図りながら、専門能力の高い職員の確保に努めている。また、職員を各種研修へ積極的に参加させるほか、関係機関との連携事業への参加・協力を通じて職員のスキルアップを図っている。
- 4 ピッコロサポートクラブは、ピッコロ劇団/劇場の活動を地域全体で支援するため、平成8年に尼崎商工会議所等が中心となって設立された後援会組織で、会員数は353人・40団体(R2.3現在)での構成。年間を通じて公演招待・割引・優先予約等の特典を用意するほか、劇団員との交流会や稽古見学会、機関誌「into」の発行等を通じて創造の現場を身近に体感できる機会を提供、地域において応援団として定着している。
- 5 令和元年度から2年度にかけて実施している施設改修工事では、国交付金(地方創生拠点整備事業交付金)を活用して、舞台美術製作を行う美術工房や開架式の図書閲覧・交流スペースの設置などにより利用者の利便性向上を図りつつ、大ホール内に障害者等対応エレベータを新設する(2年度)など、館内のアクセシビリティ向上を図る整備を行っており、今後の効果が期待される。
- 6 外部組織との連携
 - (1) 教育機関(県市町教育委員会など)や行政機関との連携
 - ・小学校: 演劇体験WS(あつまれ!ピッコロひろば)、劇団公演鑑賞体験(おでかけステージ)
 - ・中学校: 職業体験(トライやる・ウィーク)、劇団公演鑑賞体験(わくわくステージ)
 - ・高校・大学: インターンシップ、見学、演劇指導やWS
 - ・行政機関: 職員研修やWS
 - (2) 劇場・音楽堂等間のネットワーク: 阪神公立文化施設協議会(幹事館:兵庫県芸術文化センター)、アクセシビリティ事業にかかる連絡会議(主宰:当館)
 - (3) 兵庫県、尼崎市、地元関係団体、地元企業等との連携・協力(子どもたちの劇場招待など)
 - (4) 日本劇団協議会、兵庫県劇団協議会への参加。日本劇団協議会による県内公共団体での外国人対象WSやファミリーーター育成WSについてピッコロ劇団が協力。兵庫県劇団協議会50周年記念合同公演(元年8月)での記念碑的作品「大正七年の長い夏」上演に参加協力。
 - (5) 日本芸能実演家団体協議会(芸団協)や日本演出家協会との連携(関西地域でのシンポジウムやWS)

(参考1)ピッコロシアター事業運営方針

①上質な演劇を創造し発信します	専属のプロ劇団を持つ演劇の拠点劇場として優れた舞台作品の創造・発信/ファミリー劇場や学校公演など子ども・青少年向けの作品製作・発信/関西の演劇人材を結集したプロデュース作品の制作、関西の演劇創造の活性化 など
②感動を共有できる“人と場”を育てます	ピッコロ演劇学校・舞台技術学校による地域の芸術文化活動を支える人材の育成/参加型のフェスティバルや実技教室、文化セミナーなど舞台芸術の創造と交流の場の拡大 など
③演劇の力を活用して地域づくりを進めます	舞台芸術を通して、高齢者・障害者・子育て世代など多様な方々の地域コミュニティへの参加の促進/表現力やコミュニケーション力を育むワークショップの実施や教育現場での演劇の活用など地域の未来を担う人材育成に貢献 など
④幅広い参画と協働のもとに取り組みを進めます	舞台芸術を支える多くの方々の参画のもと、行政・自治体、地域文化団体、大学等の教育機関、他の文化施設などとの協働を推進/阪神・淡路大震災時の経験をふまえ、東北との連携をはじめとした広域的な交流を促進 など

(参考2)

委員会名	設立目的	委員数 (R2.3現在)
劇場運営委員会	劇場・劇団全体の円滑な運営を図るための審議、調査研究	21名 舞台関係者(演劇、アマチュア・青少年、古典、ミュージカル、オペラ・音楽、舞台美術)9名、地元関係者(大学、コープこうべ、NPO、尼崎市、県)6名、マスコミ(NHK、神戸新聞)2名、県・財団3名、公募1名
劇団企画運営委員会	劇団公演や普及啓発事業など具体の事業についての企画検討	11名 劇団代表、演出家、劇作家、大学副学長、新聞社編集委員、演劇ジャーナリスト、財団、県
劇団能力評価委員会	ピッコロ劇団員の資質・能力を評価	7名 劇団代表、大学講師(舞台芸術関係)、演劇評論家、劇作家、演出家、新聞社編集委員

(参考3)兵庫県芸術文化振興ビジョン及び兵庫県芸術文化協会の経営方針等

兵庫県芸術文化振興ビジョン(H27.3改定)	基本目標を「芸術文化立県ひょうご」～芸術文化が暮らしに息づき、芸術文化で人や地域を元気にする社会の実現～に設定。そして基本方向を(1)芸術文化を創造・発信する(2)芸術文化の“場”を育て広げる(3)文化力を高め、地域づくりに活かす(4)みんなで支え、総合的に取り組む、と定める。
兵庫県芸術文化協会の経営方針等	経営理念・経営方針を“芸術文化の創造と交流、普及啓発及び学習機会の提供など多様な芸術文化活動を展開することにより、芸術文化の振興を図り、県民文化の向上に寄与するとともに、こころ豊かな人づくりに資する”と定めて事業運営を継続。